



# 関町小通信

平成29年3月1日  
練馬区立関町小学校  
学校だより 3月号

## 「開かれた学校」と「社会に開かれた教育課程」

校長 福岡 勤

◇3学期になり、「6年生を送る会で披露する0年生の出し物を見せていただきたいのですが…」  
「天才ジュニア集会で発表する我が子の姿を参観したいのですが…」  
「クラブ発表会での演奏を聴きたいのですが…」等、保護者からお問い合わせをいただくことが多くなりました。

結論から申しますと、通常の授業は、土曜授業・学校公開日のような積極的な公開をしておりますが、「開かれた学校」の趣旨から御来校いただき、遠くから参観いただくことは可能です。ただし、上記の「土曜授業」「学校公開日」の他、「6年生を送る会」「児童集会」「クラブ発表会」等は、通常の教育活動や児童が相互の活動や発表を見合う教育活動(特別活動)の場です。「運動会」「学芸会」「入学式」「卒業式」等のように、御案内を差し上げて地域・保護者の皆さんを対象に来校・参観いただく「行事」ではありませんので、ビデオ、デジカメ、スマホ等での録音・録画・撮影は御遠慮いただくとともに、保護者用の椅子の用意や観覧席は設けておらず、遠巻きに御覧いただくことを御了承の上、お越しく下さい。

◇さて、中教審教育課程部会の「審議のまとめ」の中には、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現という言葉があります。この変化の激しい社会を生き抜くために必要な力を育成しなければならないことは、先月の関小通信にてお話しいたしました。この実現のためには、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりして、学校教育を学校



内に閉じずに関き、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現する必要があります。

具体的には「何ができるようになるか」という観点から育成を目指す資質・能力を整理し、その上で「何を学ぶか」という必要な指導内容を検討し、さらにその内容を「どのように学ぶか」という子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要があるのです。

その入口として、本校は今年度、「学校・地域連携事業推進校」になり、放課後や土曜日を活用した「関小未来塾」の開設をはじめとする事業や次のような外部人材を活用した授業を積極的に実施してまいりました。

「おそうじきょうしつ」(企業、1年)、「ブックトーク」(図書館、2年)、「自転車乗り方教室」(警察署、3年)、「水道キャラバン」(水道局、4年)、「年金教室」(社会保険労務士会、5年)、「みどりの授業」(企業、6年)

※「教室名」(外部団体、学年)

紙面の関係でほんの一部しか紹介できませんが、今年度は、のべ40以上の外部人材活用授業を展開しました。「教員の限界を教育の限界にしない。」来年度もこの言葉を合い言葉に、数多くの外部人材活用の授業を展開し、子供たちへの豊かに学ぶ機会の提供に努めてまいります。